

## Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2018年 7月 3日公開 ポルトガル・リスボンより

(日本時間7月4日午前5時～ポルトガル時間7月3日午後9時～)

皆さん、シャローム。アミール・ツアルファティです。ポルトガルのリスボンより、中東情勢アップデートを行ないます。あと二日ここに滞在してから家に戻り、妻の誕生日を祝って、翌日から日本、オーストラリア、ニュージーランドでの講演に向かいます。

ということで、今日お話しすることですが、これがまた、実にたくさんの方が起こりました。ではまず初めに、面白い話から始めてニッコリしましょうか。

イランの高官の、昨日の発言です。

「イスラエルが、イランの雲を盗んでいる！」



Figure 1

トンデモ発言をするイランのジャラリ准将

そのために彼らは、この30年のうちで最も厳しい干ばつに苦しんでいるのだそうです。文字通り、彼はこう言いました。

「イスラエルと、もう一つ、この地域の大国が…」

彼は、サウジアラビアのことを言っています。

サウジアラビアは彼らの最大の味方…ではなく、最大の敵ですから。

サウジは、私たちの味方になりつつあります。

これが面白いことに、我々には様々な英雄的“特徴”とでも言いますが、を与えられていますが、それでも、誰かの雲を盗んだと言って非難されたのは初めてです！

面白いことに、イラン国内の気象学者でさえ、「あの高官は訳の分からないことを言っている」と言っています。

しかし彼は、

「地域全体の標高約2,200mの山々では、どこも雪があるのに、イランの山には何も無いのがその証拠だ」

と言うのです。そして、彼は

「イランの98%で雨が降らないような干ばつは初めてだ」

と言います。当然、これはイランの人たちに、ゴミと嘘と欺きを吹き込むのが目的です。イランの政権は、自国民の世話をし、脱塩施設を建設して、海水を使って飲料水にする代わりに、アメリカの何億ドルという資金を使って、毎月毎月、地域全体のテロリストに資金提供しているのです。それがまさに、イラン国内の暴動が終わらない理由で、イランの国中でずっと継続しています。その中のいくつかのスンニ派の町では、より暴力が激しく、テヘランといった他の町では、暴力はまだましな方で、しかしこの人たちには、飲料水がないのです。

これは、インフレや通貨価値の下落のような問題ではありません。彼らにはもはや、飲料水がないのです。それほどに、とんでもないのです。

イラン協議で、イランに約束された何兆ドルというお金、オバマ政権によってす



Figure 2 イランの暴動を動画で報じるツイッター

画で報じるツイッター

でに与えている全ての資金は、イラン国民の生活を良くするためではなく、イエメンやレバノン、シリア、イラク、それからガザ地区のテロリストやケダモノを養うために使われるのです。そのため、イラン国民が自分たちの政権に騙されていたことを理解していて、今、見たこともないような事が起こっているのです。イラン国民が、路上で叫び始めたのは、

「パレスチナに死を！」「シリアに死を！」

実際、彼らは

「アメリカとイスラエルは、我々の敵ではない！」

と言っています。イラン国民は

「我々の敵は、我々の政権だ！」

と言っているのです。

「アメリカは我々の敵ではない！」

「イスラエルは我々の敵ではない！」

ちなみに、私たちはそれを見ています。私たちが、テレグラムという別のアプリのチャンネルをペルシャ語で始めたところ、何百万という数のイラン国民が、はるばるイスラエルから情報を得るために、ログインしているのです。彼らは、自分たちの政府のものよりも、イスラエルの情報の方が真実で、信頼できることを知っているのです。

よく考えてみてください。これは、情けない事ですよ？

ですから、私たちが現在目にしているのは、イランがこの厳しい制裁に圧迫されているだけでなく、——アメリカ政権からの史上最も厳しい制裁で、これらのためにイラン国民は、家から路上に出て来ています。

しかしイラン政権は、自国民からも圧迫を受けているのです。皆さん、理解しておいてください。自国民から退陣させられることを恐れている政権は、それを維持するためなら、どんな事でも行います。そのため、北朝鮮はあのような事を行なっていて、そのために現在のイランもこのような事を行なっているのです。

事実、現在テヘランで起こっていることを見て、世界中の聖書を信じている人たちは、イランが「よし。イスラエルを攻撃する同盟国に加わろう。」と言う日が、どれほど近いかを悟らなければなりません。現在、彼らは、我々を攻撃することは出来ません。少なくとも、直接攻撃は出来ません。彼らはその方法を知りませんし、そんな余裕もありません。しかし、彼らが戦争に向けて後ろ盾を得て、失うものが何もないとなれば、その時彼らは、全ての苦しんでいる同盟国たちに加わります。激しい経済後退に苦しんでいるロシアや、トルコといった国です。彼らの通貨、リラが大暴落しています。

ということで、私たちは興味深いことを目にしているのです。確かにこれは、宗教的な問題かもしれませんが。しかし現実には、結局のところ、エゼキエルが描写している通り、エゼキエル戦争の全ては、経済的利益が目的です。略奪が目的であり、こういった国々の生き残りが目的です。それを私たちは目にしていて、しかもイランが現在行なっていることを見てみると、これが凄いです。非常に興味深いのは、イランの大統領が、イラン協議に調印した全てのヨーロッパ諸国との会合に招待されました。私に理解出来ないのは、彼らは今日、パリでイランの外交官を逮捕したのに、ヨーロッパは何故彼を招待するのでしょうか。逮捕されたのは、テロリスト集団の輪の頭で、フランス国内でテロ攻撃を行おうとしていたのです。皆さん、想像出来るでしょう。イランは、一瞬たりともテロを止めることなく、企てます。事実、ドイツの州の一つ・バイエルの諜報トップが「イランと北朝鮮とシリアはどこも、核兵器を手に入れようとしている」

と結論付けています。

そのためには、一瞬たりとも手を止めない。このイラン協議は、ハッタリで嘘である。

私は、北朝鮮のも同様だと思っています。私は否定しませんよ。

金正恩はまだ、彼の計画を手放していないことを理解していますし、彼は未だに世を欺いていると思っています。彼は、自分の計画を手放す前に、何らかのモヤモヤした気持ちや、燃え上がる怒りのようなものを経験するのかも知れません。

ただ一つ確かなのは、イランはまだ続行中で、彼らは既にウラン濃縮施設の一つを再開しました。我々は至近距離から見張っていますが、彼らは一瞬たりとも無駄にしません。ということで、イランでは物凄い暴動が国中で起こっていて、過去30年間で最悪の干ばつが起こっています。雨が降らないのです。水道から水が出ません。そのため、現在あちらでは、非常に興味深いことが起こっています。

続けて皆さんにお伝えしたいのは、まず第一に、イスラエルはイランの雲を盗んだとして非難されています。が、現実を見ましょう。

我々は優れているかも知れません。

我々は、様々な事を上手くやっているかも知れません。

しかし我々は、そこまで優れてはいません。

我々は、自分たちの国から1,500マイル(2,400km)も離れた国から、雲は盗みません。

我々は、高度かも知れませんが、そこまで高度ではありません。

面白いジョークではありますが。

現在、イランのインターネット、サイバー界は、あの高官のジョークでいっぱいです。

彼らのしていることは、かなり哀れです。

次にお話するのは、残念ながら、もっと深刻な内容です。

ロシアが、シリア南部のダルアー(Daraa)という町で激しい攻撃を指揮しています。

ダルアーは、シリア内戦が始まった町です。8年以上前、それはダルアーで始まりました。始まりは、政権の流血となった葬式で、それが全てのきっかけとなりました。



Figure 3 ロシア軍によるダルアー空爆

ここで、皆さんに理解しておいてほしいのは、ロシアが恐れているのは、イランがコントロールして、イスラエルがそれに反応し、全てが南に行ってしまうことです。ですからロシアは「見世物」をしているのです。ロシアは空から空爆して、ロシア兵もしくは司令官が、見世物を執り行っているのです。彼らは、戦っているわけではありません。司令官が現場にいて、どこに爆弾を落とすかをロシア空軍に指示して、シーア派民兵とアサドの兵士を送って戦わせ、

見世物を執り行っているのです。民兵たちは、戦いにおいては非常にお粗末で、アサドの兵士も同様です。ですから現場では、反政府勢力がかなり成功しています。しかしながら反政府勢力は、ロシアの激しい空爆に対しては無力です。皆さん、理解しておいてください。これらの空爆で、数十人単位で民間人が殺害されている

のです。先週だけで、200人以上が殺害されています。この48時間の間だけで80人が殺され、そのうちの23人は子どもたちですよ。



Figure 4 ロシアの空爆によって殺害された子どもたち

皆さんにお聞きしますが、国連安保理はどこですか？

国連人権委員会はどこに行ったのですか？

殺人を非難する記事はどこにありますか？

イスラエルが殺せば、そのうちの95%がハマスのテロリストであっても、世界は「イスラエルがガザ地区で大量殺戮を執り行っている」と言っただけで非難します。

ところが、ロシアが町や村を爆撃し、罪の無い子どもたちを大量に殺害しているのに——明らかに彼らはテロリストではありませんよ！——しかし、誰も何も言いません。

このように、100%純粋な世の偽善がそこにあって、当然ながら、誰も何も言いません。

現在、25万人近くの人たちが自宅から追われているのですよ？それが、国連人権委員会は、現在、ヨルダンに国境を開くようにと命じています。

彼らはロシアに、空爆を止めるようには言いません。

彼らはアサドに、爆撃を止めろとは言いません。

彼らはヨルダンに、国境を開くように命じているのです。

事実、シリアの人たちはイスラエルに向かって逃げて来ていて、イスラエルは

「我々は、国境を開くことは出来ない」

と言っています。それをすれば、テロリストが入って来ることを我々は分かっていますから。しかしイスラエルは、出来る限りのことをして、喜んで助けます。この数日間にイスラエルは、シリアの中心で活動して、我々はテント、食料、薬、救急器具を持ち込みました。イスラエルは、シリアの人たちを助けています。我々の敵であった人たちです。それがイスラエルによって手当を受けていて、その間に、彼らの国民や彼らの友人が、彼らを殺しているのです。それだけではなく、この48時間のうちにイスラエルは、子どもも含む負傷したシリア人たちを、どうにかイスラエルに連れて行って、イスラエルの病院で治療しています。このようにイスラエルは、負傷したシリアの子どもたちを治療し、シリアの人たちに食べ物や医療を与えていますが、ロシアやアサド、ヒズボラ、トルコについては、それは言えません。ということで、現在我々が目撃している、シリアの人たちに起こっていることは、シリアの人たちでさえ、もし平安や改善、助けを求めるなら、イスラエル側に行くべきだ、ということを理解しています。

「彼らは唯一、決して私たちが殺さない人たちだ」と。

これが、シリアの人たちの知っている事です。パレスチナ人もまた、知っていますよ。

しかし、彼らは決して世界に向かってそれを言いません。我々は、ガザ地区で負傷した子どもたちを何人もイスラエル国内で治療しています。

ハマスは、彼らをイスラエル国境に向かって送り込み、イスラエル兵に撃たれるように仕向けますが、我々は彼らを連れてきて治療します。子どもたちを撃つことは、明らかに我々の意図することではありませんから。我々は、テロリストを殺したいだけで、テロリストは彼らを人間の盾として使っているのです。これがイスラ

エルの行なっている事です。これが我々の信条で、我々の道徳の羅針盤であって、我々は、可能な限りこれを続けて行きます。

ということで、ロシアは空爆を行なっていて、ロシアは上空で見世物を展開していますが、シーア派の兵士やアサドの兵士たちは、全く使い物になりません。

イスラエルは、ずっと目を見張っています。

シリア東部で戦争が起こっている限り、私たちには問題ありませんでした。

しかしそれがどんどんイスラエルの側、イスラエルの国境、ゴラン高原に近づいて来るのなら、イランの地位確立であれ、シリアの協定違反であれ、我々は許しません。

1974年5月31日の撤退協議は、イスラエルが最後にシリアと調印した協定で、軍事、領土に関する合意です。そしてその合意では、国境周辺の一定の地域で、兵士や戦車、大砲の数を制限しています。それがもしアサドが状況を利用するなら、もしアサドが、試しに兵士や大砲や戦車を、この1974年の撤退計画で禁止されている領域へと移動させるなら、イスラエルは対応しなければなりません。イスラエルは、撤退合意の違反は容認しないことを、既にアメリカとロシアの両方に伝えています。また、我々はクレムリンとワシントンと、密に連絡を取り合っています。非常に興味深いのは、ロシアとアメリカの両方が、今の時点で同盟国として見ているのは、世界中で唯一、イスラエルだけです。

ロシア軍のロシア人司令官全体がつい最近、テルアビブを訪れています。

もっと言えば——皆さんの中には、これが物凄く怪奇に聞こえている人がいるかも知れません。しかし、イスラエル軍本部には、ロシアの将校がいて、イスラエルの将校が、モスクワにあるロシア軍の本部にいて、シリア国内でのイスラエルの活動を統率出来るようにしています。皆さん、理解しておかなければなりません。現在、シリアを支配しているのは、ロシアです。ですから、イスラエルがシリア国内のイランを攻撃する時、我々は必ず、ロシアが干渉、妨害しないようにしなければなりません。今のところ、それは上手く行っています。それはロシアが、この協力関係を気に入っているからです。

しかし、勘違いしてはいけません。

ロシアは自分たちの利益を守っているだけで、今の時点での彼らの利益とは、シリアの安定を保つことであり、それを行なうには、イランのペテン師たちが邪魔なのです。だから彼らは、イスラエルがシリア国内で活動することを認めているのです。

イランがイランに留まる限り、ロシアはイランの同盟国です。

しかしイランがシリアにいと、イランはロシアに問題をもたらします。

最近のインタビューでネタニヤフ首相が言った通り、ロシアにとってイランが問題なのは、ロシアの戦争の略奪物を巡って、イランが競合となるからです。

イスラエルの目からは、確かに我々には、ガザ国境に問題はありますよ。

ところで、彼らは凧や風船を送り込んでいますが、実に馬鹿げています。しかも彼らは、子どもたちを送り込んでそれをさせているのです。でも、彼らのしている事といえば、ただ、あのあたりに火災を引き起こしているだけで、大きな被害はありませんし、イスラエルの安全や、イスラエルの存在を脅かすようなものではありません。そのようなものは、一度もありませんでした。だから現在、イスラエルの本当の問題は、北部国境なのです。

また、さらに我々は、イランとヒズボラにはっきりと告げています。

「もし、イランがヒズボラを使って、シリア国内で何かを行うなら、イスラエルはレバノン国内のヒズボラを攻撃する権利を執行する。」

ちなみに、ヒズボラは我々に答えて言いました。

「もしイスラエルが、レバノン国内のヒズボラを攻撃するなら、彼らにはシリアからイスラエルを攻撃する権利がある。」

と。これがまさに、イランがシリアに地位を確立することを我々が認めない理由です。現在、我々にはイラン問題が、レバノンとシリアの両方にあるのですから。

次にもう一つ。

ところで、私がお伝えすることは全て、聖書的な意味があるのですよ？よく考えてみてください。たとえ私たちが、常にエゼキエル戦争について語っていたとしても、エゼキエル戦争が起こるためには、ダマスカスが滅びなければならないことを忘れてはなりません。これは、イザヤ書 17 章です。そして、ダマスカスが滅びるためには、何らかの脅威があつた地域から起こらなければなりません。ですから私は、

「我々は、北で起こっていることに注目している」

「我々は、シリアに目を向けている」

と言うのです。イランとヒズボラの両方が状況を利用して、あちらから我々を攻撃して来る可能性がありますから。しかし、イスラエルの報復は、シリア政権に向けられます。我々は、彼の国で起こっている事責任は、彼に取らせますから。ですから、これらを目にしているというのは、非常に興味深いです。

さて明日（7月4日）、242年目のアメリカの誕生日に向けて、お祝いの言葉を伝える前に、皆さんにお伝えしたいと思います。イスラエルの首相が、今日だったかと思いますが、イベントの中で、アメリカの方々に記念日の祝辞を述べました。それだけでなく、今回は、アメリカとイスラエルが、独立国家として存在して以来初めて、エルサレムにあるアメリカ大使館が祝辞を受け取っています。これは歴史的な事、素晴らしい事です。そこで私のアメリカ人の友人全員に、お伝えしたいと思います。

「独立記念日おめでとうございます！」

では、あと二つお伝えします。

一つ目はご存知の通り、数日前にウィリアム王子がイスラエルを訪問しました。



Figure 5 オリーブ山から神殿の丘を眺めるウィリアム王子

彼は、帰国の際に次のように言いました。

「この地域を5日間訪問した後、中東に平和をもたらすための、生涯にわたる課題を約束する。」

“生涯にわたる課題”です。彼は、中東に平和をもたらすまでは、休まないことを誓いました。

これらの言葉を覚えていてください。

これから私たちは、ますますこういった言葉を、若く、カリスマ性のある、ヨーロッパの指導者たちの口から聞くことになるでしょうから。といっても、私の目には、彼はそこまで若くカ

リスマ性があるとは見えませんが、事実、皆さんもイスラエル人たちが言っていることを見れば分かりますが、イギリスはここ数年の間、ムスリム人口がどんどん増加するに従って、激しい反イスラエル主義ですし、1930年代には、ユダヤ人がイスラエルの地へ移民することに、イギリスは激しく反対していました。それから皆さんは、これもお知っておくべきで、同時に我々は「中東に永続する平和をもたらす」というのが流行りになっていることも目にしています。

これを覚えておいてください。反キリストは「平和の人」として現れ、あの地域に平和をもたらしますから。これが一つです。

次に、つい先ほど私は、アメリカの皆さんに242年目の誕生日のお祝いの言葉をお伝えして、それから今回は、アメリカがエルサレムをイスラエルの首都と承認して、大使館をエルサレムに置いてから初めての誕生日だったこともお伝えしました。そこへ、さらに良い知らせがあって、これはまだ公式ではありませんが、ヴィシエグラード・グループ(V4)の4ヶ国、ポーランド、チェコ共和国、ハンガリー、スロバキアが大使館をエルサレムへ移転するようです。これは、素晴らしい事です。

我々がホロコースト法に関して、ポーランドとの問題を解決し、彼らがそれを和らげた後、このことが彼らの方から、私たちに伝わって来ました。



Figure 6

ヴィシエグラード・グループ4ヶ国

恐らく、4ヶ国と一緒に大使館をエルサレムに移動させるのを、非常に近い将来目にするでしょう。ポーランド、チェコ共和国、スロバキア、ハンガリーです。

皆さん、これは欧州連合をバラバラに引き裂く、物凄い動きです。なぜなら、欧州連合の公式的立場は、エルサレムは、イスラエルの首都ではない、エルサレムは、イスラエルとパレスチナ両方の首都であり、両国の間で分割されるべきだ、

というものです。これが彼らの思考であり、我々は、それとは全く違うものを目にしているのです。

このために、皆さん、私たちは現在のような欧州連合からの解体を目にしているのです。そのために、フランスが推し進め、ドイツが協力して、10ヶ国だけの新しい勢力を設立しようとしているのです。それは、独自の指導者がいるだけでなく、独自の軍隊も所有します。非常に興味深いです。

ダニエルの預言をよく聞いて、覚えていてください。

10本の角について、そしてその中から反キリストが興ること。

我々が今、目にしているのは、欧州連合が今の状態では長続きせず、移民危機によって物事が完全に分断され、今度はこの4ヶ国が大使館をエルサレムに移転することで、今やエルサレムが、再び交渉のテーブルに置かれます。これは、ワクワクするニュースです。

もう一つ、皆さんがそちらのニュースでは決して聞くことのない話をしますと、サウジアラビアが先週、カタールに対して愛想を尽かし、ある決断をしました。カタールは、サウジからさほど遠くない場所にある、小さ

な半島で、サウジと国境を共にしている、非常に非常に裕福なスンニ派の国です。



Figure 7 カタールの位置

そのカタールは、サウジアラビアの友、同盟国の側から——よく聞いてください——イラン、トルコ、ロシア、それから、エジプトとヨルダン、それから当然、ガザ地区内のムスリム同胞団を支持する側に移行しました。これは非常に興味深い事です。

皆さん、理解しておいてください。私たちが目にしていることが、とても面白いのです。サウジが何を決断したか、見てください。

サウジが決断したのは——

当然、世界のメディアは、初めは冗談だと思いました。

しかしサウジは、7億5千万ドルを投資して、90日以内に海峡を造る作業を始めると決断しました。彼らの領土内に海峡を造り、カタール半島をサウジアラビアから完全に切り離して、「カタール」という名の島を造ります。この海峡は、カタールの側ではありませんから、カタールには何も発言できないのです。そしてサウジは

「ここは我々の領土だから、我々は好きなように掘ることが出来るのだ」

と言います。彼らの計画は、60 km、幅 200m、深さ 20m。7億5千万ドルを投資して行なわれるプロジェクトです。彼らはこれを、1年以内に仕上げようとしています。彼らはこれほどまでにカタールに怒りを燃やしているのです。皆さん、これは驚きです！

サウジとカタールは大親友だったため、彼らは互いに全ての秘密を知っています。

それが今では、もはや友ではなく、サウジは全ての汚い部分を暴露しています。

サウジが我々に言っているのは、

「カタールは、FIFA（国際サッカー連盟）に多額の賄賂、お金を内密に渡して、4年後のワールドカップが、カタールで開催されるようにした。」

つまり、何億ドルというお金が、FIFAの指導者に密かに渡されたのです。

それだけでなく、アメリカの調査機関への資金提供についても、私たちは知っています。その資金は、アメリカの政治家たちに支払われ、彼らが退職した後、この機関の側に立つようにしました。皆さん、カタールは政府を買収し、銀行、ホテルを買収し、FIFAを買収し、世界のスポーツクラブを買収しています。そして、サウジはカタールに愛想を尽かしたのです。サウジは、「アル＝アラビーヤ」という独自のテレビ局を持っていて、カタールは「アル＝ジャジーラ」を持っています。アル＝ジャジーラはカタールの強力なプロパガンダマシンで、彼らは日夜サウジを激しく攻撃しています。サウジはそれに三下り半を突き付けました。ということで、私たちは反対側で、非常に興味深いことが起こるのを目にしています。また、カタールがイランを支援しているため、イランがイエメン人に資金提供し、イエメン人はサウジアラビアを毎日攻撃しています。ちなみに今日、サウジの子どもが、イエメンから飛んで来たロケットの破片で怪我をしました。皆さんのニュースは決してそれを伝えませんが、イエメンのフーシ派は、リヤドやジッダやその他サウジの都市に向けて、ほぼ毎日のようにロケットを発射しています。サウジは、彼らがイランと戦うのを助けてくれるのは唯一、イスラエル人だけだと理解しています。彼らは、アメリカの前政権も、全ヨーロッパも、イランと協力していたことを理解しています。彼らは、イスラエル以外の人は信頼できないと理解しています。イスラエルは、イランと、イランの全地域へ地位確立しようとする動きを止める決意をしている、唯一の国だからです。だからサウジは



現在、語調が変わりつつあるのです。私は、サウジの軍アナリストや政治アナリストを見ていますが、彼らは、自分たちのテレビで、明確かつシンプルに告げています。こんなことは、初めてです。

「イスラエルには、存在する権利があるだけでなく、パレスチナは『NO』というたび、自分で自分にダメージを与えている。」

これが驚愕なのは、サウジは全ての歴史を良く知っていて、1930年代から今に至るまで、パレスチナが「NO」と言い、イスラエルが「YES」と言った、全ての瞬間を、彼らが覚えているのです。まさに、我々の元外務大臣（アバ・エバン）が言った通り、

「パレスチナは、機会を逃す機会を、決して逃さない」

とても残念です。ということで、現在私たちは、サウジとカタールの間でドラマが展開されているのを目にしています。ところで、とても面白いことに、カタールとは「島」と言う意味で、預言的な名前なのが興味深いです。

ところで、パレスチナが「Yes」とか「No」と言えば、——私たちはもう一つ、新たにコインを発見しました。イスラエルとシオンについて、語っている硬貨です。西暦70年に、ユダヤ人がローマに反乱した最後の年のもので、そこには、古代のヘブル語で次のように書かれています。

「シオンの救いのために」



Figure 8 発掘されたコイン

パレスチナの硬貨を、最後に見たのはいつですか？アッラーとか、アクサーの救いとか何とか書かれた硬貨を、最後に見たのはいつですか？それは、この何年もの間、世界が皆さんに吹き込んできたデタラメ、いかさま、フェイクですよ。パレスチナ人と呼ばれる人たちがいるとか、パレスチナと呼ばれる地があるとか。そんなものは、ありません。パレスチナという名は、皇帝ハドリアヌス（書記注：第14代ローマ皇帝。76～138）によってあの地につけられた名前です。アラブ人やイスラムとは何の関係もありません。以前、私は皆さんにお読みしましたが、ネヘミヤ2章が告げているのです。

## 20 …エルサレムの中に何の分け前も、権利も、記念もないのだ。」

（ネヘミヤ記2:20b）

あれは全くのデタラメです。彼らは、自分の利益になると見るなり、エルサレムに興味を示しましたが、エルサレムはこれまでの間に、ムスリムの指導者たちに大きな意味があったことなど、一度もありません。彼らの誰一人として、ここに住んだこともありません。彼らはみな、他の所に住みました。

皆さん、私は以前にも言いましたが、エルサレムは昔も今も、これからもイスラエルの首都です。事実、私が現在取り組んでいるメッセージは

「神は、誰にエルサレムをお与えになったのか？」

皆さんの多くは、自動的に「イスラエル！」と答えると思いますが、この答えがまた、かなり面白いのです。たぶん皆さんは驚くと思います。

決してイスラエルに与えられなかった、というわけではありません。

しかし最終的に神は、誰にエルサレムをお与えになったのか？

とても興味深いです。

これについては、近いうちにお話します。

多分、ニュージーランドでのどこかの講演でこのメッセージをお話できればと思っています。その時には、出来るだけ早くインターネットに投稿します。

私のメッセージの投稿といえば、これから数週間のうちにルーマニア語、ドイツ語、ポルトガル語のユーチューブチャンネルが出来上がります。とても楽しみです。

イスラエルは、テロリストに渡るパレスチナ当局への資金援助を打ち切る法案を可決しました。イスラエルはずっと、パレスチナへ渡すために税金を集めていて、我々は彼らにお金を与えています。しかし彼らが、テロリストの家族に支払っているため、我々が集めたお金を打ち切ることになりました。これは大胆な働きですよ。アメリカはこのような決議を、イスラエルが行う前に可決したのです。テイラー・フォース法案（書記注：巻末に補足）が可決されて、アメリカの議会はパレスチナ当局への資金援助を全て打ち切りました。パレスチナ当局が、テロリストの家族に資金提供しているからです。パレスチナ人テロリストによって、ヤッファで殺されたアメリカの元海軍兵テイラー・フォースのお父さんが今日、アメリカの駐イスラエル大使デイビッド・フリーマンの来賓として、これを祝うためにイスラエルを訪れました。パレスチナの囚人と、襲撃犯の家族に対して、アップースが支払っている金額を査定して、イスラエルが集めた税金収入から差し引く、最終承認を議員が出しました。これらのことを、皆さんも理解しておくのは重要です。

全体的には、イスラエルは非常に平穏な週でした。

皆さん、言うておきますが、私たちはまだまだ成長していて、私たちはまだまだ繁栄しています。そしてさらに、どんどん、どんどん、どんどん多くの国々が、イスラエルのパートナーになりたいと申し出て来ています。イスラエルの存続70年の間で、このような事は見たことがありません。こんなことは、初めてです。

最近の統計によれば、イスラエル人の80%が、ただ満足しているだけでなく、安心、安全だと感じていると言います。メディアは、イスラエルが非常に危険な場所であるかのように見せていますが、皆さん、言うておきます。こんにち、シカゴに住む方が、はるかにずっと危険でしょう。イスラエルに住むよりも、世界の他の場所に住む方がずっと危険です。そこに住む国民が安心していなければ、その国が安全だとは言えません。最大の壁があって、最大の武器があって、最高の兵士たちがいたとしても、国民が安心していないなら、その国は安全ではありません。しかしイスラエル人は、安心、安全であると感じていて、とても満足しています。これは面白い事ですよ。私たちユダヤ人は、いつも満足しているわけではありませんから。私たちは文句を言うのが大好きだ、とジョークで言うくらいです（笑）。ただ言えることは、私たちの今は、これまでのうちで最高です。

確かに、これは嵐の前の静けさです。

確かに、これはエゼキエルが戦争について描写した時に、彼が見たものです。

イスラエルは安全で、安心していて、繁栄しています。

ですから皆さん、理解しておいてください。

私たちは物凄い時代に生きているのです。

ですから皆さん、どうかそれを覚えていてください。

また、皆さん、そのことを喜んでください。

そして皆さん、どうか理解しておいてください。物凄い時代です。今は、終わりの時です。

どうか皆さん、元気を出してください。今は、落胆することがたくさんある時代です。

ですから、皆さんを励まします。私たちの周りで起こっている事には、全て目的があって、それも、いつきの期間です。

皆さん、ありがとうございます。一つ、お知らせしておきますと、来年のイスラエルツアーに、多くの人からお申し込みをいただきました。その中で、私も様々な場所で聖書を教えますが、2月と12月は、まだいくつか空きがございますので、是非お申込みください。人生が変わる旅になるでしょう。我々のツアー料金が他よりも少し高いのは、全てを含んでいるためです。私たちのツアーに参加されると、イスラエルに来てから一銭も必要ありません。他に何かを買いたいなら別ですが、全ての食事、ホテル、観光、チップ、全てが含まれています。ですから、ぜひウェブサイトをご覧ください。全ての詳細が記載されています。また、ウェブサイトよりお問い合わせいただければ、ご質問にもお答えします。若者ツアーに参加希望の、63歳の方と8歳の方を除いて、奨学金の申し込みがたくさん届いていますので、この中から、来年の若者ツアー奨学金の対象者25人を選びます。

皆さんのお祈り、ご支援に感謝します。また、私の体調を覚えてくださって、ありがとうございます。とても体調がよく、アジアでの大きなツアーにも準備が出来ました。

では、アロンの祝福で、このアップデートを終えましょう。

ヴェイシエメレハー

アドナーイ

イエヴァーレフハー

וְיִשְׁמְרֶךָ

יְהוָה

יְבָרְכֶךָ

・・(主が)あなたを守られますように

主が

あなたを祝福し

ヴィーフネツカー

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

ヤーエール

וַיְחַנֵּךְ

אֵלֶיךָ

פְּנֵי

יְהוָה

יָאֵר

・・(主が)あなたを恵まれますように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

照らし

シャーローム

レハー

ヴェヤーセーム

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

イッサー

שְׁלוֹם

וְיִשֶׁם

אֵלֶיךָ

פְּנֵי

יְהוָה

יִשָּׂא

平安を あなたに (主が)賜るように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

上げて

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

※ 連続して発音する場合は以下

イエヴァーレフハー アドナーイ ヴェイシエメレハー

ヤーエール アドナーイ パーナーヴ エーレーハー ヴィーフネツカー

イッサー アドナーイ パーナーヴ エーレーハー ヴェヤーセーム レハー シャーローム

- 24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。  
 25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。  
 26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24~26)

主のシャローム。全ての理解をはるかに超える平安、世には与えることも、理解することも出来ない平安、平和の君、平和の主だけが与えることのできる平安を、今からとこしえまで、どこにいても、あたえられますように。それは、イエシュア、私たちの救い、イエスです。彼の御名によって祈ります。

全ての神の人は言います。

アーメン。

アーメン！

ありがとうございます。God bless you! I love you!!

ポルトガルのリスポンより、シャローム！

さようなら。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

#### 【写真出典一覧】

トンデモ発言をするイランのジャラリ准将：INDEPENDENT “Iranian General blames water shortages on Israel ‘stealing rain from clouds’ ” 2018.7.4

イランの暴動を動画で報じるツイッター：jalil azizi のツイッターより 2018.6.25

ロシア軍によるダルア一空爆：twitter Siege Updates “Assad’ s regime & Russian military forces continue their military campaign on the cities & towns of Daraa province for the 16<sup>th</sup> day in a row” 写真は Mohamad Abazeed による。2018.7.7

ロシアの空爆によって殺害された子どもたち：twitter Asaad Hanna “Daraa’ s children under Assad and Putin’ s fire” 2018.7.5

ヴィシェグラード・グループ4ヶ国：Google Map 紫色に塗ったところ。(色付けは書記)

カタールの位置：Google Map (矢印、下線は書記)

発掘されたコイン：Facebook Hananya Naftali “Amazing discovery in Jerusalem!

A Hebrew coin that was minted shortly before the destruction of the Second Temple in 70CE was found in the city of David. The writing on it says in ancient Hebrew: “4<sup>th</sup> year of the salvation of Zion” !” 2018.7.1

#### 【補足】

テイラー・フォース法/Taylor Force Act

2016年3月、テイラー・フォース(当時28歳)というテキサス在住の男子大学生が、大学の研修旅行でイスラエルを訪問した時、テルアビブで殺傷テロに遭い、死亡しました。

テロリストは、西岸の町カルキリヤ出身の21歳のパレスチナ人、その場で治安警察に射殺されたのですが、このテロリストの遺族が、自治政府から多額の遺族年金を毎月受け取っていることをアメリカ政府が知り、激怒。

アメリカが自治政府に抗議すると、「テロリストやその家族への手当や遺族年金は、自治政府の法律に則った正当な社会保障。それに、政府が手当を支払わないと、人々はハマスに転じてしまう。市民のためにも、政府のためにも最善の方法だ」と開き直る始末。

そこでホワイトハウスは、2017年12月6日、「使途が明確になるまで、パレスチナへの援助金を減額する」と言う法律を採決。殺害された青年の名を取って、「テイラー・フォース法」と名付けられました。

(出典元：FC2 ブログ Heshbonit「経理日誌@イ国の小さな村より」2018/1/12より抜粋)